

---

## 第9回アジア証券人フォーラム（ASF）東京ラウンドテーブルについて

---

日証協 平 25.11.25～29

日本証券業協会では、アジア諸国の証券市場の自主規制機関・規制当局等から参加者を招き、第9回アジア証券人フォーラム（Asia Securities Forum: ASF）<sup>1</sup>東京ラウンドテーブルを、去る11月25日（月）から29日（金）の日程で開催した。

平成18年3月に開始された本セミナーは、近年のアジア証券市場の発展とも相俟って年々参加機関の数が増え、今回は下記のとおり計17の国・地域から18機関が参加した。この結果、第1回から通算すると24ヵ国・地域からのべ133名が本セミナーに参加したことになる。

インド：	インド証券取引所参加者協会（ANMI）
インドネシア：	インドネシア証券業協会（APEI）
カザフスタン：	カザフスタン国立銀行金融市場金融機関監督監視評議会（FSC）
韓国：	韓国金融投資協会（KOFIA）
カンボジア：	カンボジア証券取引委員会（SECC）
スリランカ：	スリランカ証券取引委員会（SECS）
タイ：	タイ債券市場協会（Thai BMA） タイ証券業協会（ASCO）
台湾：	台湾証券業協会（CTSA）
ネパール：	ネパール証券委員会（SBN）
パキスタン：	パキスタン証券取引委員会（SECP）
フィリピン：	フィリピン証券取引所（PSE）
ベトナム：	ベトナム債券市場協会（VBMA）
香港：	香港証券業協会（HKSA）
マレーシア：	マレーシア証券業協会（ASCM）
ミャンマー：	ミャンマー中央銀行（CBM）
モンゴル：	モンゴル証券業協会（MASD）
ラオス：	ラオス証券取引委員会（LSCO）

---

<sup>1</sup> アジア・太平洋地域の証券業界の交流と証券市場の発展に寄与することを目的に、同地域の証券業協会の代表者、証券取引の専門家が情報・意見交換を行う国際会議。平成7年(1995年)に本協会が提唱して発足した。本年10月には第18回総会が台北で開催された。

本研修プログラムでは、別表に示すとおり、協会内講師に加え、みずほ証券、金融庁、証券・金融商品あっせん相談センター（FINMAC）、日本投資者保護基金、日本取引所グループ、証券保管振替機構、野村證券等の関係者にもご協力をいただき、日本の証券市場における法規制、取引インフラ、関係機関の業務内容等を紹介する各種講義を行った。

上記に加え、11月26日午後には金融庁・日本取引所グループ主催の国際コンファレンス「アジアの取引所の未来」に参加し、斉藤惇日本取引所グループ CEO をはじめとするアジアの主要取引所等からのスピーカーによる講演・ディスカッションにより、アジアの証券市場の課題と展望について見識を深めた。

また、参加者自身が各市場の概要・証券規制の現状について報告するカントリー・プレゼンテーション及び、それに続くアジア地域の債券市場の発展をテーマとしたまとめのセッションでは、各国・地域の債券市場の規制、市場の状況や課題等について活発なディスカッションが行われた。

短期間のセミナーではあったが、事前アンケートの実施により、各市場の証券規制／自主規制の現状等を事前に把握し、これらの情報を参加者間で共有できたため、参加者のモチベーションは高く、中身の濃いディスカッションが行われた。参加者からも、日本の証券市場の仕組み、自主規制の枠組みについての全体像を効率的に把握できたこと、また、各市場のカントリー・プレゼンテーションで、近隣のアジア地域の証券市場の状況について相互に認識を深めることができたとの評価を受けた。日本側参加者からみても、各市場の最新の状況を知るとともに、参加者の新鮮な視点、考え方に接することができ、有意義な意見・情報交換及びネットワーキングの場となった。

参加者はすべてアジアないしその近隣地域（中央アジアを含む）の自主規制機関、証券取引所、証券業界団体若しくは規制当局において証券市場運営の第一線を担っている人々であり、各市場の発展のため本セミナーで得た知識・情報を活用していただけるものと期待している。さらに、今回のセミナー通じて、本協会をはじめ日本の証券関連機関がアジアの証券市場との友好関係、信頼関係を強化することができたことの意義は大きいものとする。本協会としても、この成果を生かし、今後一層、アジア域内協力のネットワークを拡充し、また、各市場との連携、協力関係の構築及び情報交換を促進していくこととしたい。



開会挨拶をする大久保副会長



日本証券業協会での講義



歓迎レセプションで挨拶する稲野会長



セミナー参加者との懇談



国際コンファレンスに参加



東証アローズ電光掲示板の歓迎メッセージの前で



野村証券見学



カントリー・プレゼンテーション

## (別表) 第9回 ASF 東京ラウンドテーブル/プログラム

日		プログラム名	講義担当機関(部)
11/25 (月)	1	オリエンテーション、協会の概要	日本証券業協会国際部
	2	日本証券市場の歴史及び概要	みずほ証券
	3	自主規制	日本証券業協会自主規制企画部
	4	自主規制機関が提供する統計情報	日本証券業協会調査部統計室
	5	外務員資格制度及び資格試験	日本証券業協会資格管理部
	6	証券従業員の研修制度	日本証券業協会研修部
11/26 (火)	7	エクイティ市場	日本証券業協会エクイティ市場部
	8	証券市場規制概要	金融庁
	9	国際コンファレンス 「アジアの取引所の未来」出席	主催: 金融庁、日本取引所グループ
11/27 (水)	10	公社債・金融商品市場(債券市場概要、協会規則、売買参考統計値)	日本証券業協会公社債・金融商品部
	11	証券化商品・デリバティブ市場	日本証券業協会公社債・金融商品部
	12	紛争処理	証券・金融商品あっせん相談センター(FINMAC)
	13	監査	日本証券業協会監査本部
	13	投資者保護基金	日本投資者保護基金
	14	投資家教育	日本証券業協会金融・証券教育支援センター、普及・啓発部
11/28 (木)	16	東京証券取引所の業務	日本取引所グループ
	17	保管振替システムの概要	証券保管振替機構
	18	処分(処分の種類と決定方法など)	日本証券業協会規律審査部
	19	大手証券会社の業務(内部管理体制)の概要	野村證券
11/29 (金)	20	カントリー・プレゼンテーション	参加者全員
	21	カントリー・プレゼンテーションのまとめ ～アジア債券市場整備の観点から～	(モデレーター) 日本総合研究所
	22	全体総括	日本証券業協会国際部